

# とよなか 環境



ニュースレター

発行：とよなか市民環境会議アジェンダ21  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境部環境政策課内  
〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1  
Tel:06-6858-2127 Fax:06-6842-2802

この号のハイライト

P.1～2環境フォーラムワーク  
ショップ/P.3.花と緑/P.  
4.自然部会/P.5生活展/P.6  
企業訪問・大丸ピーコック/P.  
7.とよなか市民環境会議/P.8  
企画屋本舗・編集後記

2003年(平成15年)12月号 NO.5 (通巻第23号)

## 環境フォーラム ワークショップも盛会に

今年の環境フォーラムは11月1日10時から16時30分まですてっぷで開催。午前は「環境報告書」の説明など、午後は「省エネ新生活」「環境と交通」「子どもたちが描く交通未来像」のワークショップを行った。

### 暮らしと交通を考える

午後1時から開いた環境と交通のワークショップはやや専門的な中身が予想されたが、32人の参加者と提案者5人の話題提供の中で熱のこもった話しあいが行われた。

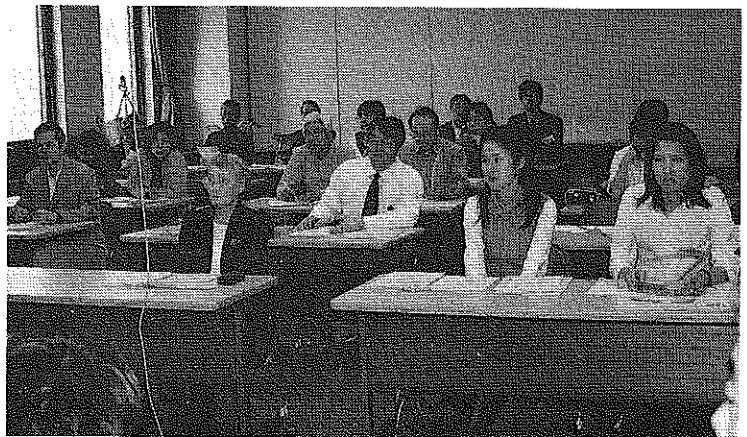
まず、司会進行を兼ねた市政研究所の土井博司さん。自動車利用により二酸化炭素排出量が増えている。環境面から電車は効率的、しかし休日の移動手段は43%が自動車、バス合わせて15%である。

池田土木の福井淳太さんは、家庭からの二酸化炭素排出量のうち自家用車は36%を占めていること。小学校でも車の環境影響を学習に取り入れ、今年度は東泉丘小学校でも実施してもらっている、など報告。

阪急電鉄の上村正美さんは、自家用車で走るときと鉄道の場合の二酸化炭素排出量が、45対5であることを説明。会社としてレンタサイクル事業に取り組んでいること、技術面ではブレーキの時に発電機が働く省エネ車両開発や、駅のバリアフリー化も順次進めていることが報告された。

阪急バスは糸川博行さんが報告、阪急バスとしては休日のマイカーを控えるよう通勤定期を持っていると家族が割り引きになる環境定期券や、高齢者には全線フリーのグランドバスなど、利用促進のサービスに取り組んでいる。無駄なアイドリングを無くすとともにハイブリッドバスや圧縮天然ガスのバスも導入しつつある。

最後に日本総合研究所の青山光彦さんは参考になる統計で次のように報告。人口は減少傾向だが世帯数は増えていること、阪急の乗車人口は減少、一方乗用車は平成10年頃から横ばい、1世帯保有台数は大阪府



の0.88台より少なく、0.76台であることなど。

### 今日の討論が交通政策づくりの第一歩

開会のときに配られていたアンケートで問題点が整理されるとともに、阪急電車の乗車人口が減っていることをどう見るか、の公共交通の問題にはじまり、自転車が行きやすい道路の問題など質問や意見がだされた。助言者・大阪大学大学院教授の新田保次さんから「自転車は道路交通法のウイークポイントで、法の通りに車道を走れば危ないし歩道を通るには歩行者のために車を押し通れと言うことになっている。何とかしなければならない問題だと考えている」

その他「迷惑駐輪が起きないように、お店が駐輪券を発行する方法などはどうか」などの意見もだされた。

「今日の討論は豊中の交通政策づくりの第一歩である。さらに知恵を出し合いよりよいまちづくりを進めたい」と締めくくられ討論を終わった。(奥野享)

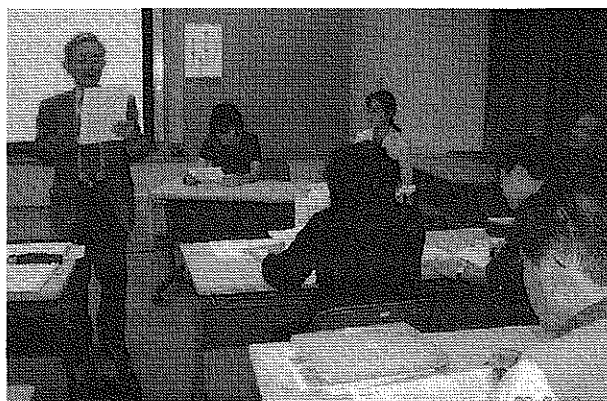
お詫び 前号1ページの総会の記事で、豊中市議会議員の名前が間違っていました。正しくは「平田明善さん」です。お詫びして訂正します。

## 環境フォーラム 生活部会は環境家計簿で討論

「環境家計簿を通して暮らしと省エネを考える」ワークショップでは、まず市民が取り組んでいる環境家計簿の活動から2つの事例が報告されました。①豊中からはアジェンダ21生活部会の今井文子さん②箕面はアジェンダ21の会の今枝章平さん、そして企業で取り組んでいる1事例として松下電器環境本部の金城佐和子さんから報告がありました。

報告はいずれも「車が大量の二酸化炭素を排出している。この二酸化炭素排出を減らすため、各世帯に環境家計簿の取り組みを推奨している」という内容でした。その中での課題は「車あり世帯」の二酸化炭素排出量を抑えるにあたり、できるだけ多くの世帯に「環境に対する関心と協力」を持ってもらうことです。そこで市民①②、企業では独自で多数の世帯に「環境家計簿」を配布し、「わが家の二酸化炭素排出量」のデータ提供をお願いしているのですが、結果は思うようにいかない。この現実を前にして省エネ情報をモニターに提供する一方、省エネのメリットを説き、モニターの広がりを求めるなど、いろいろな工夫についても報告がありました。

助言者弘本由香里さん〈大阪ガスエネルギー・文化研究所〉は、環境家計簿をつける目的をしっかりと把握すること、その上で手ごたえや達成感を得ることがポイントになる。それがやる気を起こさせ、



継続性につながる動機づけにもなる、とコメント。

そのあと、日本総合研究所の村上芽さんがワークショップの進め方を説明、参加者は8～9人ずつ3グループに分かれ「環境家計簿や省エネ」について約40分間の討論。各グループとも多くの提案がだされ、全体でグループ討論の結果発表を聞きました。

助言者からは、①モニターの数を増やすことは環境家計簿の重要性を訴えるのに必要。②モニターをいかに満足させ得るかが継続性につながる。その結果としてエコライフの活動が広がる。この2点を大事にしてご活躍を、と総括コメントがありました。

(生活部会・猪尾英雄)

## NPO法人の事務局長になります 井上和彦です

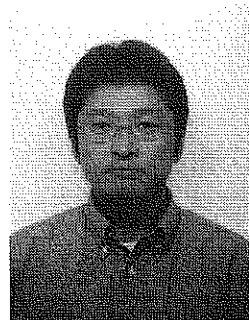
はじめまして。11月より事務局に勤めております井上和彦と申します。現在、とよなか市民環境会議アジェンダ21はNPO法人化に向けて事務局体制を整えつつあります。そこで、私が来年4月から事務局長に着任することになりました。現在は仕事の都合で、週3日のパートタイムで働かせていただいております。

今までは、京都市にあるNPO法人環境市民のスタッフとして働いておりました。主に自治体の環境基本計画をつくるのに、行政と市民がパートナーシップを組んで作業を行うコーディネーターの仕事をしていました。この経験を活かし、とよなか市民環境会議アジェンダ21の活動がより活発に、スムーズに、より有意義なものとなるよう、がんばっていく所存です。

出身は京都ですが、2年前までの3年間豊中に住んでいました。ちなみに趣味はアウトドアスポーツで、学生時代はロック・クライミングのサークルに所属し、

今はカヌーが楽しくて仕方ありません。

皆様と一緒に楽しくやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



## NPO法人の認証が下りました

今年度の総会を受けてNPO法人認証の手続きを進めてきましたが、12月10日に大阪府より認証が下りました。

## 第九中学校 1年生の総合学習に協力 花と緑のネットワークとよなか

「食」をテーマに3回連続で行われましたが、その中の1クラスの学習に参加しました。リサイクルプラザ体験の11月11日はあいにくの雨でしたが、生徒達のいるときはほとんどやんでいて助かりました。

生徒達は飛行機の着陸にまずびっくり。プラザ見学の後、農地用のとよっぴーの袋詰め作業をしてもらいました。10kg以上は入る重いものです。思ったより頑張ってくれて、90袋ほどできました。作業が終わってからクリーンランドで、農家からいただいた小さなふかし芋を食べてもらい、「これは市場に出ないお芋ですが、曲がったキュウリや小さなお芋もみんなが買うようになれば市場に出ますよ」と話しました。その後ごみ減量の話をして市の減量推進課の方にしてもらいました。前回グリーンコンシューマーのアンケートを生徒に書いてもらいましたが、生徒達は自分達が環境について学んでいるけれど、何もしていなかったことに気が付いたようです。次回は農園体験の予定です。どんな反応があるのか楽しみです。

(花と緑のネットワークとよなか・豊田佐都子)

**市民講師が伺います！生ごみ堆肥化・出前講習**  
学校・各種団体・市民etc.で企画してください！

とよなか市民環境会議アジェンダ21事務局へ

Tel: 06-6858-2848

**あなたも「とよっぴー」を使おうよ！**

「緑と食品のリサイクルプラザ」で、学校給食の生ごみや食べ残しと市内の街路樹の剪定枝から作って



る土壌改良材(堆肥)が「とよっぴー」です。昨年は53t(実績)、今年は83t(見込)と順調な歩み。質的にもなかなかの好評で、有料頒布日にはたくさんの市民がプラザを訪れています。

「生ごみはごみなんて呼ばれているけれど、堆肥になれば新たな生命をはぐくむ宝物！」そんな市民の想いをもっともっと充実・展開していくために、皆さんも是非、「とよっぴー」を使って、この試みを応援してください！

**市民応援団「とよっぴー倶楽部」会員募集中**

とよっぴー倶楽部は今秋でき立てのホヤホヤ。さっそく先日(10/30)とよっぴーで育ったサツマイモ掘りを楽しみました。その他講習会やエコクッキングなど催しのご案内や優先参加など特典がいろいろありますよ～。(花と緑のネットワークとよなか・小村幸子)

連絡先: 公園みどり推進課 06-6858-2355

## 環境フォーラム 子どもたちが描く交通未来像

午前10時、子どもたちが先生とともに続々集まってきた。東泉丘小学校と桜塚小学校の6年生18人が揃う。6人ずつ3班に分かれ大学生のリーダーの誘導もあり、午後からの路上観察のための作戦会議。

「豊中の道が〇〇だったらいいのになあ」の〇〇にことばを入れようの作業をする。

「公園が近い道」「雑貨屋さんが近くにある道」「緑があり街灯もあって明るい道」……。おとなの発想を超えた意見が出る。そんな意見をいれて、歩きに行く地域を決める。

昼食後の路上観察は1時間余、それぞれの班は予想を超えた発見を持って帰ってくる。ごみの散乱が気になって袋にいっぱい持って帰ってきた班や、道路の段差に気づいた班など。最後の結果発表は、全員が一言



ずつ元気よく話す。廊下で出会った子どもに感想を聞くと「楽しかったよ」と目が輝いていた。(奥野享)

# 自然部会の活動から

## 天竺川の清掃に参加して

「天竺川もせめて千里川ぐらいには美しくしよう」  
「親しめる川にしよう」

昨年から計画し、活動を始めたこの行事も2年目になる。昨年は、関係部局との調整を行わないまま計画を進めたが、今年は、最初から連絡をとり、市と合わせる形で計画を立てた。「広報とよなか」に掲載し市民にも呼びかけた。また、ポスターを作り市内の小・中学校や公民分館に掲示を依頼した。

このポスターを見て熊野田小学校6年生が、環境学習の一環として参加したいと申し込みがあり、打ち合わせと下見までしたが、最終的に参加が出来なくなった。現状の天竺川の持つ困難さを知らされた思いだった。(自然部会・山口寿)

9月11日、八坂橋から下流150㍍あたりの天竺川の清掃に参加した。参加者は、市役所から11名、自然部会から11名と市民1名だった。市民は「家の近くの天竺川が汚れているので参加した」とのこと。

この川は、天井川なので、7㍍の梯子3本で川へ降り、ごみは滑車や2本の綱を結んで引き上げて大変だった。大きいごみは、バッテリー4個、ふとん、鉄の輪、大きな脚立、自転車とその他大量で、小型トラック2台分あった。清掃後、水辺の植物を調べると、約40種見つけた。11月半ばには、カルガモ、コサギやカワウも来ると近くに住む人が話してくれた。町のオ



アシスになるようごみを捨てないようにして欲しいと思った。(自然部会・岡秀子)

当日は晴天に恵まれて、午前9時に予定していた人数と熊野田小学校正門前に集合した。小学生120人が私達と一緒に参加の予定だったが、川底にビン・カン類がたくさんあること、藻で滑りやすい状態だったので、急遽不参加ということになった。

この様に川底には、カン・ビンの他にビニール袋がたくさんあり、これらが大阪湾の海底に腐ることなく滞留したらどうなるのかと心配になる。掃除しやすい天竺川でさえ、このような状態であることから、大きい河川からの流入は考えるに余りある恐ろしいことである。我々にできることは、清掃をもっと頻繁にやれたら良いと思う。作業は12時に終わり散会した。

(自然部会・大塚健治)

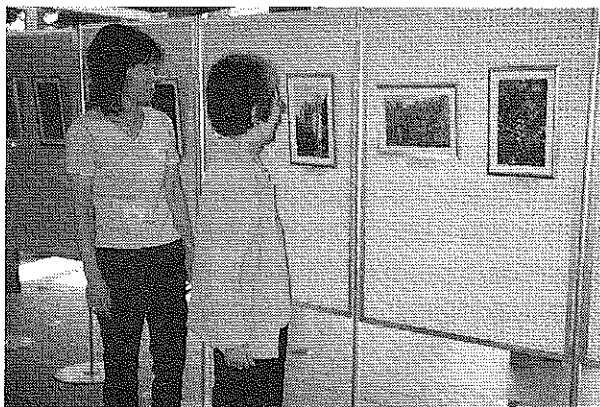
## 森田育之さんの遺作「野草写真展」

10月1日から9日まで豊中市役所第2庁舎ロビーで故森田育之さんの野草写真展が開かれました。

森田さんは銀行を定年退職してから本格的に野草の研究に取り組みました。その間に撮られた膨大な数の写真をご遺族から自然部会に寄贈されました。

中にはもう豊中で見ることが困難ではないかと思われる植物の写真もあり、記録として貴重な価値があると思われます。自然部会ではこれをできるだけ多くの人に見てもらいたいと思い、その中から今季節の秋のもの30点を選んで展示しました。

入場者の中には、森田さんに教えを受けた人も多くおられ、お元気だった頃の森田さんの姿や、観覧会の日のことなどに思いを馳せておられました。どこへ行くのも自転車で使って出かけ、精力的に植物



の研究に熱中された森田さんの自然への強い思いや、小さな野草にも目を注がれた温かい気持ちが感じられました。

次回は季節にあわせて春、夏と展示を行う予定です。(自然部会・岡恒夫)

## 生活展・クイズラリーや竹炭、野菜の販売など

11月9日午前10時から、くらしかんの生活展が開かれました。今年のスローガンは「市民発！スローなくらし再発見」、環境にも配慮した新しい生活スタイルをと呼びかけ、楽しい一日でした。

アジェンダ21としての参加は、各部会プロジェクトのパネル展示とクイズラリーの第一ポイントの担当。また、竹炭ととよっぴー（緑と食品のリサイクルプラザでつくった堆肥）で育てた季節の野菜の販売。

クイズラリーの担当は、1階正面入り口を入ったすぐのところまで三択クイズを提供しました。段々畑のある1枚の風景写真と豊中市の大きな地図を掲げ「この風景は豊中市のどこで撮ったものでしょう？」と地図に3地点を示しての出題です。答は東泉丘でしたが、「こんな風景が豊中市にもあったんだ」と、写真を見て感心することしきりでした。

クイズラリー第一ポイントの横では、竹炭プロジェクトが千里中央公園で焼いた竹炭と竹酢液とを販売。今回は8200円の売り上げがありました。

とよっぴー堆肥で育てた野菜は今年も大好評。入り口をはいったすぐの両側に机を出して積み上げました。前日に畑から獲ってきた大根やかぶらなどは葉っぱをつけたままでみずみずしく新鮮そのもの。とくに今回



は小曽根農研の農園4軒からも野菜の提供があり、いつも実験農園として協力願っている箕面の柳澤農園、豊能町の大谷農園のものと合わせ大賑わいの野菜市でした。販売したのは小松菜・しろ菜・きく菜・みず菜・ほうれん草・ねぎなどの葉もの野菜、中抜き大根・長大根・大小のかぶら・にんじんなどの根菜、そして掘りたてのさつまいももあり、すべて売りつくしました。原価を差し引くと残りは3万9百円でした。

なお、今年的生活展来場者は約1500人、クイズラリーに参加した人は313人で、そのうちの283人がゴール、予定していた景品も殆ど出払いました。

環境展は 2月7、8日に市民会館で開きます。

メインテーマ 「ストップ！地球温暖化」

サブテーマ ～さあ変えよう 私たちのくらし～

## 第1回自然学習講座 「都市熱環境と自然」

10月18日（土）、中央公民館にて自然学習講座を行いました。これは、自然部会が毎年3回行っている講座で、毎回さまざまなジャンルの先生を講師として呼び寄せています。今回は、大阪大学大学院工学研究科助手（工学博士）の鳴海大典先生に「都市熱環境と自然」というテーマで講演していただきました。パワーポイントと詳細なレジュメをもとに、わかりやすく説明してくださり、30名ほどの参加者だけで聞くにはもったいないほどの内容でした。

講演では、大阪におけるヒートアイランド現象の原因として、東京と比べてもはるかに緑が少ないこと、この30年間に緑の量が20%も減少したこと、エネルギーの消費が増加していることなどが挙げられました。実態として、ヒートアイランド現象は地球温暖化の気温上昇と比べると3倍の速さで上昇していること、具

体的な実験データからヒートアイランド現象に陸風と海風の影響が大きいことを示されました。また、セミやキノコ、桜など、生態系への影響についても、私たちが考えている以上に深刻だということがわかりました。

鳴海先生は、ヒートアイランド現象の対策について、エネルギー消費の抑制だけでなく、緑地の効果を挙げられました。「大きな期待をしてはいけません。楽しみながら、0.5℃下げる努力をしましょう。0.5℃下げるということは、地球温暖化の気温上昇で考えると、半世紀前の平均気温に戻るということになります」と言われたことが印象的です。この言葉を胸に、コツコツと自然を守り育てる活動をしていかなければいけないと再認識させられた講演でもありました。

（廣田学）

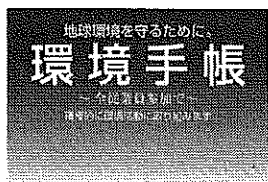
## 大丸ピーコックを訪ねる

### 量販店でのISO14001はどんな風にやっているのですか？

ISO14001は企業が環境に配慮していることを示す環境管理の国際規格である。製造業での話はよく聞くが量販店ではどんなものだろうか、そんな疑問を抱きつつ千里中央の大丸ピーコックを訪れた。

#### 〈環境手帳〉を全社員に

「こんなものがあるんです」と示されたのは定期入れにはいる小さな環境手帳。全社員に配られている。



「少なくとも年に1回は社員研修を受けることが義務づけられ、この手帳に記録されます」——やっぱりISOの認証を受けるということは、社員全体の会社を挙げての取り組みである。

——流通業でのISOの活動の特徴とえば？

環境にやさしい商品を扱い販売を拡大することと、

一般廃棄物・食品廃棄物を少なくすること、などが重要になります。

——減農薬有機栽培のコーナーが目立つように食品売り場にあったのを思いだす。

入れ物や包装を少なくするため、野菜や果物の裸陳列にも努めています。

——それで販売コストの削減につながりますか？

裸陳列にするとどうしても傷みや早く、プラスマイナスがゼロになればよしとしなければならいでしょう。ですから、その日に陳列したものをその日の内に売り切って廃棄する商品を少なくすることが、苦労するところです。ISOを取得したばかりの2001年～2002年には食品の包装容器は20%も削減できました。

ISOに取り組んだ成果です。その頃にできることの大半をやったので2002年以降の削減幅はそれ程大きくはないと思いますが。

#### レジ袋を減らす取り組み

——レジ袋を減らす取り組みについてもご苦労しているでしょう。

10月5日の「マイバッグデー」に調べたところでは、マイバッグ持参率は10.5%になっていました。毎月5日のマイバッグデーには自社のポイントカードのポイントを2倍にしています。容器包装材の削減で



社内用のリサイクルボックス

はレジ袋だけでなく、発泡スチロールトレイを溶かし大きなかたまりにする機械が会社の奥にありました。機械の側面にリサイクルの流れが説明されていて固まりからペレットになり、最後は香港に輸出されることまで書かれています。よく分かる説明はいろいろな点で勉強になりました。

環境保護のプログラムは、環境手帳に整理されて書かれていました。①包装資材の削減を図る、②エネルギー資源の削減を図る、③天然資源の枯渇の防止、④一般廃棄物・食品廃棄物の減量化を図る、⑤人と地球環境に優しい商品の更なる扱いの拡大、です。

#### きめ細かい取り組み

——「電気エネルギーの削減」も環境手帳に載っていますか…。

いちばん気をつけているのは、冷蔵庫や冷凍庫のフロンガス漏れを絶えずチェックすることです。食品を扱う事業としての最大の問題です。オゾン層破壊のガスを放出させないことはもちろん、温度管理を最適に保つことで食品の鮮度保持にもなり、経営面でも大きなメリットをもたらします。でも今年になり営業時間の延長などで電力消費は増えています。その他、社員食堂や休憩室の照明は責任者をきめて小まめに消すように努めています。

なるほど、休憩室や廊下などの蛍光灯はプルスイッチにしている、スイッチのひもに電気を消す責任者の名前を書くようにしていました。きめ細かい取り組みに感心。会社の裏を残らず見せてもらい、帰路につこうと店の中へ戻ると店内の明るさは別世界のよう。現場の厳しさを再認識した取材でした。（奥野亨）

## 第5回とよなか環境フォーラム開催される！

去る11月1日に「第5回とよなか環境フォーラム」がすてっぴで開催されました。午前の部には124人の参加があり、環境報告書(2002年度中間報告書)の説明やDVDの視聴、市民の取組み発表が行われました。午後の部はワークショップと全体のまとめがありました。ここでは、午前の部について、ご報告します。(ワークショップはP.1~3を見てね！)

### みんなで聞こう！ -地球温暖化防止に向けた、豊中市民による取組み報告-

#### ①環境家計簿の取組みから とよなか市民環境会議アジェンダ21 今井文子さん

生活部会では、毎年作成している「エコライフカレンダー(環境家計簿)」に対して、約100人のモニターを募り、世帯人数別でのCO2排出量を算出、分析されています。特にガソリンの使用量がCO2に影響が大きいこと、モニターのみなさんがちょっとした工夫で削減を図っておられることなど報告されました。

#### ②モノレール駅でのレンタサイクルシステム導入実験から

#### とよなか市民環境会議アジェンダ21 森岡秀幸さん

交通部会では、昨年度モノレール千里中央駅においてレンタサイクル社会実験を行われ、アンケート結果などから、自動車からの転換への利用者意識や放置自転車の再利用の満足度など、事業展開に向けた基礎資料を得ることができたと報告がありました。

#### 〇ワークショップに向けたメッセージ 神戸山手大学助教授 中野加都子さん

二つの発表を受けて、まず実行したこと、その削減の効果について定量的な分析を行ったことについて、「すばらしい！」と評価をいただくと共に、午後からのワークショップに向け、温暖化防止行動を行うときに陥りやすい注意点などお話しいただき、みなさんの取組みを多方面につなげていきましょうとメッセージをいただきました。

## 「豊中アジェンダ21」って？

前号で今年度から豊中アジェンダ21の見直しを行うことをご紹介しましたが、それでは「豊中アジェンダ21」って、どんな計画なのでしょう？

### 〇そもそも「アジェンダ」って何？

「アジェンダ」と辞書で引いてみると、「協議事項、議題、課題」とあり、「アジェンダ21」は、「21世紀への課題」という意味です。1992年にブラジルのリオで開催された「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」では、21世紀に向けて私たちが行動しなければならない計画「アジェンダ21」が採択され、その条文の中で地域課題解決のために、市民、事業者、行政の参加協力によるローカルアジェンダ21が必要とうたわれています。

「豊中アジェンダ21-地球環境を守るとよなか市民行動計画」は、これを受けて1999年3月、とよなか市民環境会議により策定された、101の行動提案型の計画です。

次号では、「豊中アジェンダ21」の特徴と見直し委員会の状況をお知らせします。

## 企画屋本舗・ちょっといい豊中見つけに行こかウォーク ～桃山台から上新田、千里中央あたり～

11月22日の土曜日、前日までの雨模様がうそのように晴れわたり、その反面気温が前日より8度も下がった寒い日になりました。参加者はスタッフを含めて30名、今回はスタッフとして大学生のボランティア参加もあり、寒さに負けない熱いウォークになりそうな予感がする出足です。講師としては大阪府文化財愛護推進委員の松尾幸男さんを招き、上新田の歴史を詳しく説明していただきました。参加者は鯨チーム・ワニチーム・アヒルチームに分かれて、新千里南町の黄色に染まったイチヨウ並木の坂をゆっくり下り、天竺川沿いの桜の下を旧新田小学校に向かいました。途中で、地元の人でも見過ごしてしまう宝生地蔵尊があり、その由来の説明には興味深く聞き入りました。

旧新田小学校は内部を公開されており、古い教科書やオルガンを見たり、小さい椅子に腰を掛けては童心

に帰ってしまいました。

パークヒルズでは、ごみの出し方やペットボトルのリサイクルと、ひと味違う説明があり上新田の古い町並みに入って行きます。ここでは個人宅の玄関の中まで入ってもらい、女優の黒木瞳さんがこの家でCM用の写真を撮った話には全員がびっくり。その後天神社横の竹林を抜け、ニュータウンへ出たときは静から動へ、まるでタイムスリップした感じが起きたのは参加者の顔つきで分かりました。千里公民館でワークショップを行い、「日ごろ歩

いている道でも、説明があると興味が尽きない」「自然を一度壊すと元にはなかなか戻らないことを、役所も個人も知っておく必要がある」「古い町並みは散策には良いが実際の生活は不自由さが想像できる」など参加者の声が聞こえ前回までのウォークとは違った、《ちょっといい豊中たくさん見つけたウォーク》でした。  
(企画屋本舗・池田一夫)

## 編集室から

▼できたら道草もありィの楽しい紙面をと思う。で、私の戯言。半年前から本気でパソコンを始め、寝る時間に食いこむことに気づく。高齢者に流行らせる向きもあるが、どうやら高齢者を早く死なせる謀略ではないかと思いつつ、わなにはまっている。(Z)

▼環境フォーラムでの報告に、車から出すCO2は全体の36%をしめるとあった。環境展のテーマも”ストップ地球温暖化”に。今、自分が車を止めることは出来るのか、最大の課題だ。ドイツで経験した1日パスや家族定期券の普及は日本では無理なのか。(W)

▼お米の空き袋(紙)の中に「とよっぴー」と糠で床を作り、生ごみを入れ始めた。1日たつとほのかなぬくもり、2日目には50℃くらいの発酵熱、かき混ぜると湯気が…。生きてる～！これはもうカスピ海ヨーグルト作りと同じくらいの感激。どうぞお試しを！(Y)

▼たくさんの参加があった「とよなか環境フォーラム」これまでの成果が、これを機にいろいろな人や場とつながって、更にステップアップの予感！まだまだ広げましょうね、環境の輪(K)

▼今号の校正から参加しています。とよなか市民環境会議アジェンダ21の活動を広く知ってもらい、もっと多くの方が参加できるようにしていけたらなあと考えています。(J)

▼編集の仕事をするようになって“目からうろこ”の連続です。アジェンダの行動提案に反する生活をしていた私も、「地球に優しい人になりたい！」と思うようになりました？！(P)

《広報チーム》  
Z奥野、W岩瀬、Y小村、K別所、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)